

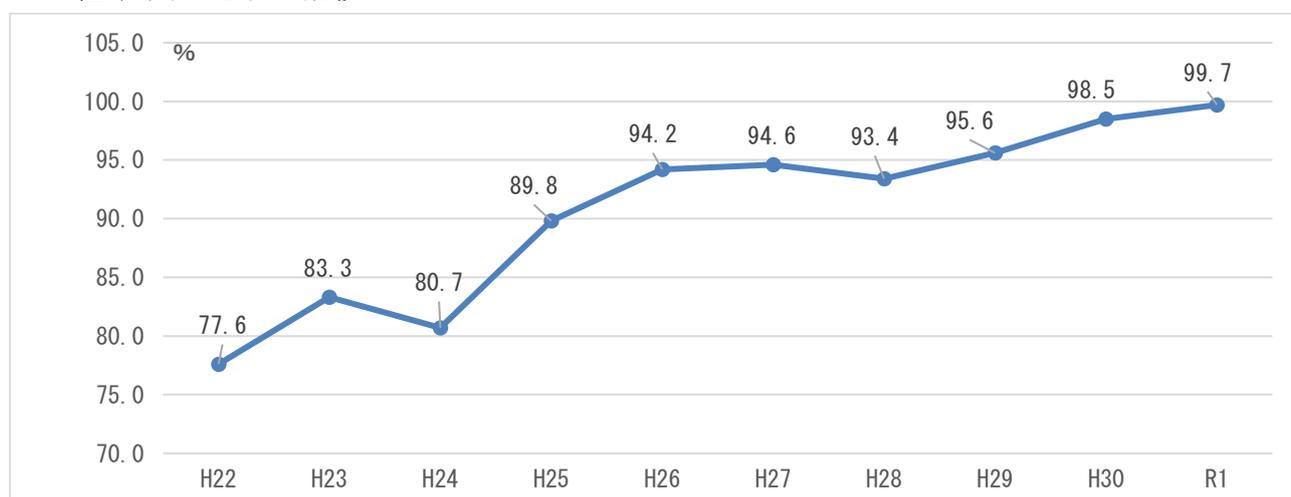
# 令和3年度 矢巾町予算編成方針

## ◆本町の財政状況

本町の歳入は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動に停滞により、今後町税や各種交付金の減少が避けられない状況である。また、不足分の財源として活用する基金の残高が減少しており、予算編成に必要な財源の確保が困難な状況である。

歳出では、岩手医科大学附属病院の移転に合わせた周辺道路の整備など、大規模な普通建設事業は一段落したものの、扶助費、物件費など経常的経費の増加により財政の硬直化が深刻となっている（令和元年度経常収支比率 99.7%、県内ワースト 2位）。さらに、実質公債費比率（令和元年度 13.9%、県内ワースト 7位）や将来負担比率（令和元年度 143.9%、県内ワースト 1位）の財政健全化指標も前年度より悪化しており、財政健全化への取り組みが急務となっている。

### ◆経常収支比率の推移



### ◆実質公債費比率・将来負担比率の推移



### ◆基本方針

令和3年度の当初予算は、従来どおりの財源を確保することが困難な状況が見込まれることから、すべての経費について可能な限り支出を抑え、例年と比較して予算規模を「縮小」することを念頭に編成を行う。特に経常的経費は、すべての経費について必要性や効果、積算内容を十分に検証したうえで予算を削減し、財政硬直化の改善を図るものとする。

### ◆留意事項

1. 職員一人ひとりが厳しい本町の財政状況を認識し、当事者意識を持って知恵を出し合い、限られた財源を有効に活用する施策を展開すること。

2. 新型コロナウイルス感染症対策に継続して取り組むとともに、ウィズコロナ社会における新しい生活様式、経済活動を支援する取り組みを推進すること。
3. 「第7次矢巾町総合計画」及び「矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、各種計画に位置付けている施策は、緊急性と必要性、事業実施後の財政負担を十分に検証の上、「最小の投資で最大の効果を挙げる」内容、経費で計上すること。
4. 厳しい財政状況下であっても、前向きで活力満ちた行政運営を行うとともに、すべての事業において創意工夫と質の向上に努め、次世代に向けた投資を効果的に行うこと。
5. 担当事業だけでなく他課の事業についても目を向け、関連業務について積極的な意見交換等を行い、組織間連携による効果的な事業展開に努めること。
6. 事業の「スクラップ・アンド・ビルド」を徹底し、当初見込んだ成果が得られない事業や、成果を達成している事業については補助事業、単独事業問わず廃止し、新規事業、既存事業の拡充等に必要な財源を確保すること。

7. 新規事業については、国・県支出金等の特定財源を積極的に活用するとともに、目標及び終期を必ず設定すること。
  
8. 経常収支比率の改善に全庁を挙げて取り組むこと。特に「物件費」及び「補助費」については、あらゆる角度から徹底的な見直しを行い、可能な限り予算を削減すること。